

自動車地球温暖化対策実施方針

《 1 大規模荷主 》

事業者名	東洋インキ株式会社	事業所名	埼玉製造所				
取組措置		具体的取組措置			R3	R4	R5
01	荷主の物流部門における二酸化炭素排出量の把握 ----- (01) 二酸化炭素排出量の把握及び課題等の抽出	物流関連会社は、協力会社と定例会議(1回/月)にて環境への取組について説明をしている。業務を委託委託している輸配送業者から、実績報告を受け燃料法及びトンキロ法による計算式を用いてCo2の算出をしている。その結果を取りまとめている。協力会社へは、車両の更新時にCNG車両の検討も依頼している。事業所としては、車両の積載率を向上させる為、前日受注を得意先へ依頼し協力を頂いている。			○	○	○
01	荷主の物流部門における二酸化炭素排出量の把握 ----- (02) 貨物輸送事業者及び自社関連部門との情報共有及び改善のための取組実施	物流関連会社は、輸配送協力会社と連絡協議会(1回/月)を行い情報の共有を行うと共に環境負荷低減の取り組みについて協議している。CSR報告書の配布を行い環境対応の情報共有を行っている。			○	○	○
02	環境に配慮している貨物輸送事業者の選定 ----- (01) 貨物輸送事業者に対する法令上提出の義務がある運輸部門の二酸化炭素排出量削減に係る計画の提出確認	物流関連会社は、協力会社監査及び協力会社評価選定時に埼玉県地球温暖化対策条例に基づく自動車地球温暖化対策計画書、省エネ法に基づく計画・定期の報告等)の提出状況の確認及び提出の推奨。			○	○	○
02	環境に配慮している貨物輸送事業者の選定 ----- (02) 貨物輸送事業者の環境配慮の確認	運送基本契約に環境規制を盛り込んでいる。また、貨物輸送事業者に対して環境関連法規(自動車NOx・PM法等)に適合した車両の使用やグリーン経営、グリーン・エコプロジェクト活動、Gマーク取得などを確認している。			○	○	○
03	物流拠点の活用による輸配送の効率化 ----- ()	当グループの輸配送効率化を行う為、物流関連会社が物流拠点ハブ化を行い積載率の向上と物量のコントロールをしている。(船舶/鉄道の活用)			○	○	○
04	積載率の向上による輸配送の効率化 ----- (01) 商品・荷姿・梱包資材の形状の標準化や軽量化等による積載率の向上	生産部・品質管理部は、容器の統一化、軽量化を行い、輸送の積載率向上を行っている。			○	○	○

自動車地球温暖化対策実施方針

<p>04 積載率の向上による輸配送の効率化 (02) 混載便の利用や共同輸配送の取組</p>	<p>物流関連会社は、少量輸配送など物量に応じて、混載便の活用をしている。また、共同配送も行い積載率の向上を行っている。帰り便の有効活用を行っている。</p>	○	○	○
<p>04 積載率の向上による輸配送の効率化 (03) 輸送量及び積載率を考慮した適正車種での発注</p>	<p>物流関連会社は、自動配車を行い積載率を向上させている。また、遠方には船舶輸送、鉄道輸送、トラック輸送と3モードを選択しながら輸送を行っている。</p>	○	○	○
<p>05 計画的な貨物輸送による輸配送の効率化 (01) 発注時間及び配送時間のルール化</p>	<p>物流関連会社は、受注時間は、前日15時で締め切りを行い、最適な積載率と配車計画を行っている。</p>	○	○	○
<p>05 計画的な貨物輸送による輸配送の効率化 (02) 道路混雑時の輸配送の見直し</p>	<p>一部、道路情報収集やETC2.0導入による渋滞情報を活用することで、効率よい輸配送経路へ迂回する。特にトラックに取付けているETC装置は、高速の走行時、渋滞情報がリアルタイムで入るので、効率の良い走行ができる。</p>	○	○	○
<p>05 計画的な貨物輸送による輸配送の効率化 (03) 輸送車両の待ち時間の削減</p>	<p>荷受けのトラック入場をスケジュール化し待機時間の削減を行っている。</p>	○	○	○
<p>06 その他輸配送の効率化により輸送距離及び回数を削減する取組 ()</p>	<p>物流関連会社は、輸配送効率化を行う為、物流拠点ハブ化を行い積載率の向上と物量のコントロールをしている。(船舶/鉄道の活用)また、週5回から3回へまとめ輸送をしている。</p>	○	○	○
<p>07 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 (01) 貨物輸送事業者に対する、低燃費車又は省エネルギー支援機器搭載車(以下、「低燃費車等」)の利用要請</p>	<p>物流関連会社は、協力会社に対して低燃費車両への切替確認。専属契約車両にデジタコを搭載。</p>	○	○	○

自動車地球温暖化対策実施方針

<p>07 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 (02) 貨物輸送事業者に対する、エコドライブの実施要請</p>	<p>物流関連会社は、乗務員朝礼及び協力会社管理者会議(1回/月)実施。デジタルタコメータ/ドライブレコーダーの結果を利用したエコドライブの推進</p>	○	○	○
<p>07 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 (03) 貨物輸送事業者に対する、低燃費車等の利用状況やエコドライブの実施状況の確認、改善に向けた取組の実施</p>	<p>物流関連会社は、協力会社監査(1回/年)を実施した際に、車両の入替状況の確認を行っている。また、環境に対する取り組みも確認。</p>	○	○	○
<p>07 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 (04) 周辺道路への路上駐停車及び構内アイドリング防止のための取組</p>	<p>事業場外での待機時間削減を行う為、場内での待機場所を設置。乗務員待機場所の整備を行い、熱中症対策を行っている。また、周辺待機に対する注意事項の通達を実施。</p>	○	○	○
<p>08 サードパーティーロジスティクスの活用 ()</p>	<p>東洋インキSCホールディングスはホワイト物流自主行動宣言を行い、東洋インキ(物流関連会社)は、原料サプライヤーや他企業と連携し、共同物流の取り組みを推進する。</p>	○	○	○
<p>09 共同輸配送も視野に入れたモーダルシフトの推進 ()</p>	<p>物流関連会社は、同業他社を含めた共同配送と、帰り荷を検討した往復配車計画の実施</p>	○	○	○